令和5年度

山川中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇自分の考えをまとめ，文章で表現できる生徒の育成
〇基礎・基本の学習が定着し，主体的に学習に取り組んでいける生徒の育成

◎次の(１)～(３)をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

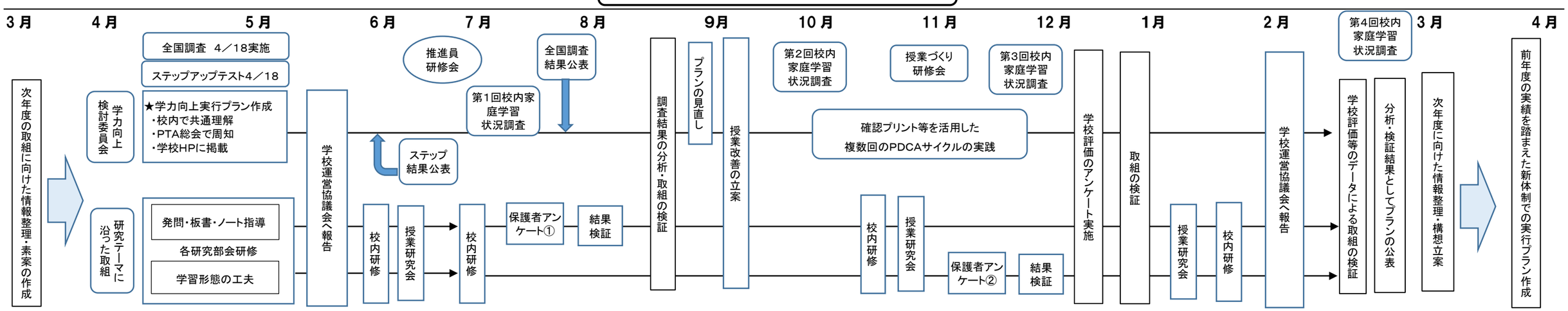
(１)知識・技能の習得

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇調べ学習で，決められたテーマに沿って調べたことを自分でまとめることができる。 ●書くことに苦手意識をもっている生徒が多く，語彙が少ない。学習習慣が確立していないため，基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題がある。	・主体的に他者と対話を行い，協働的な学びができる。 ・繰り返し，粘り強く取り組み，基礎的・基本的な事項について習得できる。	・調べ学習や授業に，ICT，デジタル教科書，タブレット，ホワイトボードミーティング等を活用する。 ・小テスト等で基礎学力の向上を図る。	・学力向上学習プリントを活用する。	・デジタル教科書やタブレットを活用した授業が増えた。 ・放課後等の時間に，学力向上学習プリントや基本的な問題を解く時間を設けることができた。 ・各教科で継続した小テストを実施できた。	・各教科で基礎学力定着を図るために，学年を越えた取り組みができるように施策を考える。

(２)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇目標を継続し，実践することによって，学年があがるごとに真剣に授業に取り組むことができる。 ●まとまった文章を書くことや，自分の意見をまとめることに苦手意識があり，発表することに課題がある。	・自分の考えや思いを，目的や条件に応じてわかりやすく相手に伝えることができる。 ・家庭学習が２時間以上できる。	・授業の目標と流れを的確に提示する。 ・板書・ノート指導の工夫や視覚支援なども含め，教材研究を行い，よりよい授業作りに努める。 ・オープンクラスで，お互いの授業を参観して，効果的な授業方法を取り入れ，積極的に自分の考えや意見を発表させて，言語活動の充実を図る。	・効果的にタブレットを使用した授業を実践する。	・毎授業ごとに目標や流れを掲示することで，生徒は意欲的に取り組むことができた。 ・学習時間調べでは，家庭学習時間が校内平均２時間以上となり，１時間以上の家庭学習時間を確保できた。	・タブレットを効果的に用いた授業実践をし，教員がいつでも自由に授業参観ができるように推進する。

(３)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇与えられた課題については，まじめに根気強く取り組み，提出することができる。 ●家庭学習が十分に定着していない傾向がある。不得意な学習内容に対して，自分で計画を立てて克服することに課題がある。また，読書の習慣が身についていない生徒がいる。	・学ぼうとする意欲・意識を明確にし，学習規律を守り，家庭学習や苦手な課題にも自ら取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかり振り返り，目標をもち，それを達成するための計画を立てて，家庭学習に意欲的に取り組むことができる。 ・進んで読書に取り組むことができる。	・授業の開始と終了に元気な挨拶ができるよう指導する。 ・各教科で学習規律の明確化と徹底を図る。何をなぜ・どのように学ぶのかが生徒に伝わるよう，授業のめあてを提示する。 ・生徒自らが作成した学習計画のもと，テスト勉強に地道に取り組むことを習慣づける。 ・朝の学習の時間に，毎日読書ができるように時間を設定する。	・『学習のきまり』を徹底できるように指導する。 ・学習時間調査であがった課題を共有し教科指導に結びつける。	・『学習のきまり』をもとに，授業や休み時間の使い方が落ち着いてできるようになった。 ・毎朝読書をする習慣がついた。 ・学習計画では，自分の決めた目標に対して計画的に学ぼうとする生徒の割合が増えた。	・次年度も『学習のきまり』を徹底し，落ち着いて学習に取り組む姿勢を養う。 ・テスト前だけでなく，普段から家庭学習が継続してできるようにする。

令和5年度　学力向上ロードマップ